

## 編集後記

## 執筆者

『大崎学報』一六三号をお届けいたします。

本号には五氏の論文と一点の日蓮聖人坐像修復の報告を掲載しました。

小松邦彰氏の論文は日蓮聖人の法華經安樂行品受容について、遺文中に見られる引用文を中心に、その特色について法雲・智顛・吉蔵の見解をふまえて考察しています。

福岡良樹氏の論文は日隆上人の八品教学の特質を挙げて、その正統な継承者と自負する本門佛立宗の祖である日扇上人が、どのように受容し布教の場実践したのかを考察しています。

木村中一氏の論文は江戸後期の在家日蓮研究者である深見要言が編纂した、日蓮遺文集『御書五大部』の出版経緯と、底本として用いられた遺文写本の選定について考察しています。

秋田貴廣氏・伊加利庄平氏の論文は彫刻修復において置き去りになっている修復論を構築することを最終目的とした考察の中から、特に修復措置のひとつである「補彩」について、その理念と措置を構造的に関係付けることを試みています。

秋田貴廣氏・笹岡直美氏の修復報告は前論文に基づいた修復の実例で、彫刻芸術における複合的な要素が顕わになる一例として、彩色の剥落がもたらす鑑賞上のダメージ緩和の可能性に重点をおいた「補彩」措置を報告しています。

小松邦彰 立正大学仏教学部教授

福岡良樹(日雙) 本門佛立宗立佛立教育専門学校長

木村中一 立正大学日蓮教学研究員

秋田貴廣 立正大学仏教学部助教授

伊加利庄平 立正大学仏教学部非常勤講師

笹岡直美 立正大学仏教文化財修復研究・実習室研究員

平成十九年三月二十日 印刷  
平成十九年三月三十一日 発行

非売品

編集 大崎学報編集委員会

発行者 北川前肇

印刷所 株式会社プリカ

東京都品川区大崎四の二の一六

発行所 立正大学仏教学会

郵便振替 〇〇二二〇一六一七三二五六